

# 横浜市立岡村小学校 学校評価報告書（令和2年度）

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
豊かな心	① 朝のあいさつ運動、なかよし班活動や人権週間の活動など、児童会活動の充実を進める。 ② 「特別の教科 道徳」を核とする道徳教育の教育課程の精選・開発を進める。 ③ 幼保小連携事業、小中交流事業や地域交流クラブなどの交流活動の充実を進める。	9月から児童会活動、なかよし班活動（異学年交流）、音楽朝会などを、感染症防止のルーチンを守り、コロナVer.の形で継続的に実施することができた。また、幼保小交流も直接交流はできなかったが、学校案内DVDを作成するなど、新たな活動を試すことができた。	A
健やかな体	① 3密回避等の行動基準を遵守し、友だちと健康・体力作りに取り組む体育科授業を実践する。 ② 学習や生活の習慣改善のために、学校保健委員会の展開を工夫する。 ③ 運動を楽しむ子を育むために、縄跳びタイムやランニングタイム、早朝クラブを実施する。	臨時休業中も校庭開放や緊急受入れを積極的に行い、子どもたちの健康に配慮した活動ができた。授業開始後は、体育科重点研究で感染症感染防止のガイドラインを順守した学習づくりに取り組んだ。岡村オリンピックやなわとびタイムなども充実できた。	A
生きてはたらく知	① 一人ひとりの学びを大切に、UDに基づく授業、スキルタイムの活用などの充実を進める。 ② 一人ひとりの学びを大切に、少人数指導や教科担任制による指導などの充実を進める。 ③ 学習習慣形成のために、家庭学習や読書活動の充実、ICT活用力の育成を進める。	臨時休業中は、新教科書に準拠した学習プリントを自作するなど、家庭学習の充実に努めた。授業再開後は、飲食を伴う学習や校外での学習など、その一部ができなかったものの、ICT（タブレットなど）や図書室等を活用した学習に積極的に取り組んだ。	B
特別支援教育	① 学習等に課題をもつ子どものために、個別指導教室（けやき教室）を手厚く実施する。 ② 個別支援学級の子どもの成長を促進するために、学習環境や交流活動等を工夫する。 ③ 子どものよりよい育みを推進するために、専門機関（療育センターなど）との連携を進める。	4、5組の子どもたちが豊かな教育を体験できるように、チーム岡村で支援した。けやき教室や算数少人数授業等は、ほぼ計画通りに実施できた。専門機関の職員を招いての研修会、カンファレンス等を実施し、教育方策などを検討できた。	A
児童生徒指導	① 子どもの課題や変容を正確に把握するために、学級アセスメント調査を年2回実施する。 ② 正しい判断力や行動力を育むために、社会的スキル横浜プログラムを積極的に活用する。 ③ 問題の早期発見に努め、チーム教職員集団の共通理解の下、その解決に取り組む。	臨時休業中は、子どもたちの生活や学習に寄り添うために家庭訪問や電話連絡を積極的に実施した。学級Y-Pアセスメント調査を年2回実施し、子どもの実態の理解に努めた。さらに、社会的スキル横浜プログラム等を活用して人間関係づくりなど指導強化したい。	B
人権教育	① 本校の特色ある新教育課程編成のために、人権教育の視点を活かした授業を実践研究する。 ② その視点から児童会活動の中で「ふわふわ言葉」標語づくりなどを大切にする。 ③ 様々な状況にある人々についての理解を深めるために、体験的な学習等を工夫する。	授業開始後、朝会や学級指導の場面で、「ふわふわ言葉」スローガンづくりなど様々な活動を実施した。2月には、児童会活動としてコロナVer.の人権朝会を企画・実施できた。体育科の重点研では、人権教育的視点を活かしてルールや場づくりを工夫できた。	A
自分づくり教育（キャリア教育）	① 本校の特色ある新教育課程編成のために自分づくり教育の視点から授業を実践研究する。 ② その視点から生活科『横浜の時間』等で「地域のひと・もの・こと」を大切にすること。 ③ 自己肯定感を育むために、振り返り学習（自分づくりパスポートの活用）を大切にすること。	岡村っ子自分づくりパスポートを作成し、後期から試行を開始した。現在、各担当委員会等で吟味している。岡村オリンピック、わくわくフェスティバル、4年～6年の宿泊体験学習、地域交流クラブ等をコロナVer.で開催し、子どもたちは目標をもって活動した。	A
オリ・パラ教育	① 本校の特色ある新教育課程編成のためにオリ・パラ教育の視点から授業を実践研究する。 ② その視点から体育科学習、生活科や『横浜の時間』等の単元デザインを工夫する。 ③ 他人を思いやる心、共に助け合う態度を育むために、体験的な学習等を工夫する。	7月、アルケミストin岡村小イベント、1月、J-TRAPダブルダッチ＆縄跳び教室、五輪マークアートPJ“ようこそ、YOKOHAMAへ”（創作活動）、2月、1年～4年のポッチャ教室、5、6年のベースボール5教室（2026年ユースオリの正式種目）を実施した。	A
いじめへの対応	① 月1回、いじめ防止対策委員会を開催し、案件の経過確認を行い、再発防止に努める。 ② 年に2回、いじめに関する児童アンケートを実施し、早期発見及び指導の機会とする。 ③ 「いじめ」を始めとする児童理解・児童指導に関わる教職員研修を、年3回実施する。	毎月、いじめ防止対策委員会を開催し、チーム岡村で問題の共有、指導の強化等を確認した。また、外部講師を招いての教職員研修も実施した。しかし、子ども間でのいじめに関わる事案は、年間を通して複数発生し、指導するとともに、防止に努めている。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	① 経験の浅い教職員の育成を目指し、校内での様々な研究・研修の機会を工夫する。 ② 全ての教職員の力量を高めるために、外部講師等を活用した研修会等を工夫する。 ③ 「教職員の働き方改革」の方策として、チーム教職員集団で職員室の改造等を推進する。	令和2年度、新メンバーを加えた教職員集団づくりを研修会や研究会の機会を活用して推進した。働き方改革は、外部講師を招いて勉強会を行ったり、民間企業から情報をいただいたりして、意識改革に努めた。コロナ禍もあり、体調を壊す教職員も目立った。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度、小中一貫公開授業・研修会、児童生徒交流日、職場体験等、中学校ブロック内の取組を実施することはできなかった。次年度は令和元年度と同様の日程を計画しているが、新型コロナウイルス感染症の感染防止・拡大防止に留意しながら、その時点での感染状況を見て柔軟に対応していきたい。また、令和3年度より「チーム学年経営」推進校となるが、先行実施している磯子小、滝頭小との情報交換を密に行い、効果的な取組となるよう進めていきたい。		
学校関係者評価	令和2年度、コロナ禍の中、それぞれの場面で、子どもたちのために、教職員が頑張ってくれた。次のようなことである。○臨時一斉休業中、地域に足を運び、子どもたちを励ますとともに、自作の家庭学習用のプリント等をまめに配達してくれた。○岡村オリンピックや宿泊体験学習等、中止するのではなく、コロナVer.を工夫することでほとんど実施した。子どもたちを勇気づけるきっかけとなった。令和3年度については、すでに学校行事の実施時期を変えるなど、コロナ対策が検討されているが、その感染状況を見て、安全を第一に柔軟に対応して欲しい。保護者も地域としても協力を惜しまない。		
中期取組目標振り返り	新型コロナウイルス感染症の感染防止・拡大防止のために費やした労力が計り知れない一年であった。そんな中、子どもたちのために学校教育をどう充実させるか、チーム岡村（教職員集団）で知恵を絞り、共通理解を深め、コロナVer.として様々な活動を展開した。7月、アルケミストin岡村小、10月、宿泊体験学習や岡村オリンピックから、2月のパスポート体験教室、新ユース・オリ競技体験教室まで。さらに、体育科重点研を柱とする日々の教育研究にも意欲的に取り組んだ。苦しい一年ではあったが、来年につながる今年であったと思う。		